

朝来市こども計画の理念・骨子に係る意見及び考え方の整理

■理念（キャッチフレーズ）

会議	意見	考え方の整理
第2回子ども・子育て会議	「こどもの想いをまんやかに」は市が重要視していることが伝わって良い。	「こどもがまんなか 幸せつながるまち」に決定する。 【キャッチフレーズに込める想い】 こどもの想いを大切にする等のこどもがまんやかにあるまちづくりを推進することで、こども一人一人が自分らしく幸せに成長でき、暮らすことができる社会を目指します。また、こうした社会になることで、こどもだけでなく大人も、さらには、将来にわたって幸せな状態があふれるまちにつなげます。 ○「こどもがまんなか」「こどもまんなか」について 「こどもまんなか」の言葉の浸透度が低く、市民に分かりづらいこともあり、「こども」を主語に置くことで、こども視点に立ち、こどもにとって最も良い利益を第一に考え、社会全体でこどもを支えていくという考え方が、誰にでも分かりやすくなるよう、「こどもがまんなか」と表現する。 また、全国統一的な表現ではなく、朝来市の独自性を感じられる表現にする。 ○「こどもがまんやかに」「こどもまんやかに」の助詞「に」について 助詞「に」をつけることで、こどもを客体に捉えられてしまう懸念があるため、「に」はつけない。 ○「幸せつながるまち」「幸せつなぐまち」について 「幸せつなぐまち」は、市としての主体性を感じる一方で、固定化された幸せをつないでいく（リレーしていく）ことや幸せと幸せをつなぐ（ドッキングする）イメージが感じられる懸念がある。 こども計画では、こどもまんなか社会づくりの取組を進めていくことで、こどもの幸せな暮らしを実現していくことが目的である。こどもの幸せの実現の結果として、大人や地域社会全体の幸せにつながっていくものであり、大人や地域社会全体の幸せを目的とした計画ではない。 以上のことから、「幸せつながるまち」とする。
	「こどもの想い」に耳を傾けることが大切であることが伝わる。	
	「こどもまんなか」が伝わってきて良い。	
	こどもの幸せが未来につながるイメージが良い。	
	総合計画のつながりを感じられる。	
	朝来市らしさを感じる。	
	こどもでもわかりやすく短文にしてはどうか。	
第2回こどもまんなか推進本部会議	キャッチフレーズ案が長いので次のとおり変更してはどうか。 「こどもまんなか 幸せつながるまち」	
	「こどもまんなか」を「こどもが <u>まんなか</u> 」とこどもを主語にしてはどうか。「幸せが <u>つながるまち</u> 」の「が」が重複するところの調整は必要である。 「こどもまんなか 幸せが <u>つながるまち</u> 」 ➡・前半の主語がこどもで明確になったことで、後半の幸せをつなげていくのがこどもであるように捉えられないようにすることが必要である。	
	主語を気にしなくてよいように短文にしてはどうか。 「こどもまんなか 幸せ <u>つなぐまち</u> 」	
	「幸せつなぐまち」と「幸せつながるまち」について ➡・「幸せつなぐまち」は、主体的なイメージがしてよい。幸せをつないでいくのは市民。 ・「幸せつながる」とは、こどもの幸せが大人やまちへ伝播していくことに加え、こどもの未来へもつながること。	
決 定 内 容		
こどもがまんなか 幸せつながるまち		

■大切な考え方

会議	意見		考え方の整理
第2回子ども・子育て会議	①②③ タイトル	端的に伝わるようにするため、「こども」は削って良いのではないか。 ①こどもの想いを尊重する → ①想いを尊重する。 ②こどもの多様なつながりを育む → ②多様なつながりを育む ③社会全体でこどもを支える → ③社会全体で支える	説明文を使わずにフレーズだけで使用する場合は考えると大切なポイントが削られ分かりづらいため、「こども」を削らないこととする。
	① タイトル	(子育て支援課調整)	「①こどもの想いを <u>尊重する</u> 」を「 こどもの想いを大切に する」に変更する。
	①説明文	「こどもは自分の想いや意見を言い、」の「言い」を「言え」「表現でき」「伝えられ」などに変更してはどうか。	「こどもは自分の想いや意見を <u>言い、</u> 」を「 こどもは自分の想いや意見を表現でき、 」に変更する。 ○「 <u>言う</u> 」と「 <u>表現する</u> 」について 想いや意見を言葉に出して言えなくても（年齢により言えない場合含む）、言葉に出す以外にも想いや意見を表現し伝える方法があり、そうした想いや意見を安心して表現でき、大人は尊重することが大切であるため、「表現でき」に変更する。
	①説明文	(子育て支援課調整)	「一人一人の個性・ <u>気持ち</u> や」を「 一人一人の個性や気持ち、 」に変更する。
	② タイトル	「多様なつながり」を「いろいろなつながり」に変更してはどうか。 「多様な」は、こどもにとって難しいのではないか。	「②こどもの <u>多様な</u> つながりを育む」を「 ②こどもの<u>つながり</u>を育む 」に変更する。 ○「 <u>多様</u> 」と「 <u>いろいろ</u> 」について 「多様なつながり」とは、地域や年代を超えたつながりのことを指している。「いろいろ」と表現することで、つながりの広さや深さの違い、つながりの数の多さなど、人によってイメージすることが異なる可能性があるため、「多様な」を削る。
	②説明文	「幸せに生きるために重要な環境です。」を「幸せに生きていくために大切な環境です。」に変更してはどうか。 「重要な」より「大切な」の方が文に柔らかさを感じる。	「幸せに <u>生きるために重要な</u> 環境です。」を「 幸せに<u>生きていくために大切な</u>環境です。 」に変更する。
	②説明文	(子育て支援課調整)	「つながりを <u>大切に</u> します。」を「 つながりを<u>育みます</u>。 」に変更する。 ○上記の変更により、「大切」が重複するため、「育みます」に変更する。
	③ タイトル	「社会全体」は遠く感じる。朝来市では「地域」の方が身近に感じるのではないか。	「 <u>社会全体</u> でこどもを支える」を「 <u>みんなで</u>こどもを支える 」に変更する。 ○「 <u>社会</u> 」と「 <u>地域</u> 」について こどもや子育て家庭を市民・事業者・地域・行政等の地域社会が一体となって支えていくことを目指している。「地域」とした場合、事業者が含まれていることが分かりづらい。どんな主体でも身近に感じやすくするため、「社会」を「みんな」に変更する。
	③説明文	困ったとき、「助けて」と言いやすく感じる ところが良い。	
	③説明文	「言い合える」は支える側・支えられる側に ならずお互い様に感じられて良い。	
	③説明文	「雰囲気」は伝わりにくい。例えば「環境」「空気感」に変更してはどうか。	「 <u>雰囲気を大切に</u> します。」を「 <u>地域社会をつくり</u>ます。 」に変更する。

会議	意見		考え方の整理
第2回 こどもまんなか推進本部会議	リード文 ①	リード文の文末が「大切にします」であり、①の文末も「大切にする」で「大切」が重複しているため、①の文末を「寄り添う」「受け止める」などに変更してはどうか。	「①こどもの想いを <u>大切に</u> する」を「 ①こどもの想いを尊重する 」に変更する。 <u>○「尊重する」と「寄り添う」について</u> こどもを権利の主体として気持ちや選択を受入れ、重んじることを表したいが、「こどもの想いに寄り添う」であれば、こどもの感情に対して共感的に理解しようとするのみを捉えられてしまう懸念があるため、「こどもの想いを尊重する」に変更する。
	③	「しんどい」は方言ではないか。「つらい」「不安」などに変更してはどうか。 ➡・「しんどい」は、現在は全国的に使われる言葉。 ・「しんどい」には、体と心のしんどさを含んでいる。 ・深刻な状況になってからの「助けて」ではなく、少しでもしんどさを感じられたら気軽に「助けて」と言える状況が重要である。	「しんどいときに」を「 しんどいと感じたときに、 」に変更する。 <u>○「しんどい」と「つらい」について</u> 「しんどい」も「つらい」心も体も苦しい状態であるが、深刻さが「しんどい」＜「つらい」である。 <u>○「しんどい」と「不安」について</u> 「しんどい」は心と体の苦しさを表すが、「不安」は心の苦しさを表す。 <u>○「感じる」の追記について</u> 少しでもしんどいと感じられれば気軽に「助けて」と言えるように「感じる」を追記する。
	③	(子育て支援課調整)	「「助けて」と言い合える」を「 お互いに「助けて」と言いあえる 」に変更する。 <u>○「言い合える」について</u> 支える側・支えられる側に分けるのではなく、互いに相談し合える地域社会づくりを目指しているが、「言い合える」では言い争い的なイメージに捉えられる懸念があるため、「互いに」を追記し、「合える」をひらがな表記にすることで柔らかさを表す。
決 定 内 容			
こどもたちが自分らしく過ごすことができるまちは、こどもも大人もだれもが幸せに暮らせるまちです。 朝来市は、将来にわたってこどもたちが幸せに暮らせるまちをつくるため、次の3つのことを大切にします。 ①こどもの想いを尊重する こどもの権利はこどもが主体であることをみんなで理解します。こどもは自分の想いや意見を表現でき、みんなで一人一人の個性や気持ち、「やってみたい」を尊重します。 ②こどものつながりを育む こどもにとって人とのつながりは幸せに生きていくために大切な環境です。家庭や学校・職場だけでなく、地域も世代も超えたつながりを育みます。 ③みんなでこどもを支える こどもの悩み・家庭の悩みを、その人だけのものにしません。こどもはもちろん周囲の大人も、困ったときやしんどいと感じたときに、お互いに「助けて」と言いあえる地域社会をつくります。			

■こどもの幸せの実現に向けた取組の全体像（構造）

会議	意見		考え方の整理
第2回子ども・子育て会議	全体	右の1～3のステップと権利の木は色合いだけでつながっているが、🍎や🍌などイラストを使い、視覚的につながりを見せると分かりやすい。	右の1～3のステップにも🍎や🍌のイラストつけ、視覚的に分かりやすくする。
	幹	こどもの権利が中央・幹になっているのが分かりやすい。	
	幹	「こどもの権利」の表現が固い。「こどものやる木」「こどもの木」に変更してはどうか。	「こどもの権利」の言葉は、今後、周知をしていかなければならない大切な言葉であるため、変更しない。
	りんごの実	わくわくの実、どきどきの実などこどもにも分かりやすい表現にしてはどうか。	幸せの状態を削除し「〇〇の実」だけにしてしまえばわかりづらいため、それぞれの幸せの状態は残し、各状態に「〇〇の実」という表題をつける。
	りんごの実	「ダメって言われたい」を「失敗しても大丈夫！」に変更してはどうか。	「 <u>ダメって言われたい</u> 」を「 失敗しても大丈夫！ 」に変更する。
	りんごの実	「ダメって言われたい」は、様々な解釈をされる可能性があり、場合によってはミスリードを生む危険性がある。	○「失敗しても大丈夫！」は、失敗することの重要性も伝わって良いため、「失敗しても大丈夫」に変更する。ただし、失敗しても大丈夫は、幸せな状態ではないため、りんごの実以外で表現する。
	りんごの実	「ダメって言われたい」は、「思いっきり遊ぶことができる」「やりたいことにチャレンジできる」に包含されるのではないか。	
	1	「豊かな土壌を耕す」の「土壌」はこどもには難しいのではないか。	
	全体	（子育て支援課調整）	プロジェクトや土壌部分に簡単な説明文を加える。
第2回こどもまんなか推進本部会議	題名	「こどもの権利」は、難しい言葉なので、「こどもの幸せ」に変更してはどうか。	「みんなで育てる <u>「こどもの権利」の木</u> 」を「 みんなで育てる「こどもの幸せの木」 」に変更する。 ○「こどもの権利」の言葉は、今後、周知していかなければならない大切なことばであるため、変更しない。
	表題	「こどもの遊び・学び・体験」は、「遊ぶ」「学ぶ」の方が良いのではないか。	他の表題も体言止めで表しており、表現を統一するために修正しない。
	チャレンジの実	「やりたいことにチャレンジできる」は、体験との違いが分かりづらい。	「やりたいことにチャレンジできる」を「 「やってみたい」を実現できる 」に変更する。 ○「 <u>こどもの遊び・学び・体験</u> 」と「 <u>やりたいことにチャレンジ</u> 」について 「こどもの遊び・学び・体験」の「体験」は、自然体験活動、スポーツ・文化活動、ボランティア活動、職業体験、交流、地域行事といった活動を指す。 「やりたいことにチャレンジ」は、まちづくりや市民活動等の取組へチャレンジするなど、やりたいことが実現できることを指す。 「 「やってみたい」を実現できる 」に変更する。
	みらいの実	「意見」よりも「想い」の方が良いのではないか。	「自分の <u>意見</u> でまちが変わる」を「 自分の<u>想い</u>でまちが変わる 」に変更する。
	3 実がなる	実は、施策なのか幸せの状態なのか分かりづらい。	「3 実が <u>なる</u> 」を「 3 幸せの実が<u>みのる</u> 」に変更する。
		「実がなる」ではなく「実を結ぶ」ではないか。	○りんごの実は、こども計画に基づき実施する「1 土壌を耕す」取組と「2 木を育てる」取組により、目指すこどもの幸せの状態（アウトカム）を表したものである。「幸せの実」と変更することで、施策ではなく目指す状態をイメージしやすくする。 ○「 <u>実がなる</u> 」と「 <u>実を結ぶ</u> 」と「 <u>実がみのる</u> 」について 「実を結ぶ」の意味は、実がなること以外に、努力が成果となって現れるという意味もあり、後者の意味を想定されないようにする工夫は必要であるため、「実がみのる」に変更する。

みんなで育てる「こどもの幸せの木」

